

## ひばりヶ丘駅北口地区まちづくり基本構想策定にあたって



西武池袋線ひばりヶ丘駅は、池袋駅まで急行で約16分の位置にあり、都心へのアクセス性に優れ、1日に約6万5千人が利用する市内で2番目に乗降客数が多い駅です。交通結節の要所として、市内はもとより近隣市からも日々多くの利用があり、今後のまちづくりの進め方次第では、市内のみならず、北多摩北部や埼玉県南部地域の中心的な拠点として、飛躍的に発展する可能性を秘めています。

本市は、平成13年1月21日に都市型合併により誕生した際、新市建設計画で「ひばりヶ丘駅周辺のまちづくりの推進」を重点施策の1つに掲げており、これを着実に進めることが、合併という究極の行財政改革を行うにあたり地域の皆様から附託された、市の最優先課題であると強く認識しております。

また、平成16年7月に策定した西東京市都市計画マスタープランでは、ひばりヶ丘駅周辺地域の将来像を「健やかな暮らしとともに、にぎわいのあるまち」と掲げ、安全性と利便性の高い空間づくりを目指しており、地域の皆様からも更なるまちの発展が期待されています。

しかし、駅北口地区はその北側に広大な駅勢圏を抱えているものの、まちづくりの基礎となる都市基盤整備が遅れているため、全体的に道路幅員が狭く、オープンスペースが不足しており、防災、安全、景観、バリアフリーという面での課題が多く、まちの潜在的な活力が十分に発揮できる状況にあるとは言えません。

このように、多くの課題を抱えている地区のまちづくりを進めるためには、現状認識やまちづくりの課題、また、まちの将来像を地域の皆様と市が共有することが重要であると考えます。そのため、地域の皆様と市との協働によることを基本理念とし、駅北口地区のまちづくり基本構想づくりにあたりました。

平成15年度には、駅や駅周辺の商店街利用という観点から、駅北口周辺半径1km圏内の居住者の皆様を対象としたアンケート調査などの事前調査を行いました。また、平成16年度には、駅北口地区の居住者、商店主の皆様を対象として、ワークショップやパネル展示説明会など、多様な市民参加手法を重ねて参りました。

これらの過程を通じていただいた多数の貴重なご意見を整理し、地域の皆様とともにまちづくりの方向性を検討して参りました。

ひばりヶ丘駅北口地区のまちづくりは、この「ひばりヶ丘駅北口地区まちづくり基本構想」をもって、いよいよ具体的なまちづくりという次のステージへ進みます。

今後、市はこの基本構想に基づき、全力を挙げて駅北口地区のまちづくりを進める所存でございます。地域の皆様のご協力無くして、この基本構想で掲げたまちの将来像を実現することはできません。今後とも、まちづくりの様々な場面において、これまで以上にご参加やご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、この基本構想を策定するにあたり、貴重なお時間を割いてワークショップなどに足をお運びいただいた、また、アンケートなどにご協力いただいた地域の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成17年3月

西東京市長 坂 口 光 治